

# 平和願う スタンディング 市民の手で続く

参議院選挙で野党統一候補の当選に大きな力を発揮した、市民の手による街角の「スタンディング」は、その後も「戦争法の廃止必ず」との思いで、続けられています。

「誰の子どもも殺させない」「憲法守って戦争させない」という思いは、多くの国民の共通のもので、「命を生み育てる親の立場からは特に切実」と、ママさんたちの参加が目立ちます。

こうした一人ひとりの市民の力が政治を動かすことこそ、民主主義の神髄でしょう。



## 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 508 2016年7月31日

連絡先  
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

# 過疎集落にIT企業が 次々にサテライトオフィス

## 文教経済常任委員会が 徳島県神山町などを視察

市議会文教経済常任委員会(上野議員所属)は、このほど行政視察として徳島県神山町・三好市、愛媛県新居浜市を訪れ、中山間地対策や過疎対策などの先進例を学びました。

このうち、神山町は、徳島県内でも奥深い山間地です。しかし、その小さな過疎集落に、ITや映像関係の企業などが次々に事業所を開設しています。

ここは「限界集落」であり、「将来消滅する可能性」を指摘されていますが、消滅どころか、光ファイバー網を活用したIT関連事業等の企業誘致推進事業や、空き家を活用した移住交流支援事業を進めて、13社がサテライトオフィスを開設しているほか、徳島大学がサテライトオフィス「神山学舎」を開設しています。

また、移住交流事業でも、ウェブサイトに「イン神山」に空き家情報を掲載したところ、多数の問い合わせが寄せられているほか、テレビなど数多



くのメディアの取材を受けるなど話題になり、この7年間で79世帯、126人が移住しているとのことです。

上野議員は、「退職後のセカンドライフを求める団塊の世代よりも、現役世代である30〜40代をターゲットにして、第2子以降の保育料を無料にしたり、働き先や職種を提案したりするなど新しい発想で取り組んでいることが印象的だった。

当上越市でも中山間地にたくさんの空き家があるなど、環境的に似ているので、行政のやり方次第で、サテライトオフィスの誘致や移住促進も進むのではないかと感想を述べています。

## 日本共産党議員団

## 市政報告会

8月5日(金)

18:30~20:30

上越市市民プラザ

# 注目の県政の検証も

## 竹島良子前県議会議員が 県の医療・福祉政策の現状を特別報告

秋の県知事選に向けて、内外で関心が高まってきています。泉田知事は、原発では安易な再稼働を阻止する立場ですが、福祉・医療行政では県民の願いに反することばかり。

私たちの生命に関わる政策で県民の立場に立てない知事では困ります。

今回の市政報告会では、竹島前県議による、県の医療・福祉政策などの特別報告を計画しています。